

日本鉄鋼協会記事

第2回理事会

開催日：6月3日(金)。出席者：小林会長，ほか23名。

1) 第3回日独セミナーに関する件

1978年に第3回セミナーを開催する予定で、VDEhよりSecondary MetallurgyとElectrochemical Measurementの2テーマの提示があり、先方の提案をうけることになった。

2) 石炭ガス化利用調査研究(昭和52年度サンシャイン計画)受託の件

52年度も燃料協会と共同受託することとなり、本会は委託費411.5千円を受け51年度の継続研究を行なう。

3) ISO TC17(鉄鋼)幹事国に関する件

従来のいきさつもあり、現在の日本のおかれている国際的立場からいままさら拒絶もできぬ状況であるので、他に引受国がなければ幹事国を引受けてもよい旨の書類を提出した。

研究委員会

第2回委員会開催日：5月30日。出席者：豊田副会長，不破委員長，ほか18名。

1. 不破研究委員長より新任の挨拶があり，各委員の自己紹介が行われた。

2. 日独セミナーについて 次回(1978年春)のテーマについて VDEhからの提案を検討した。今後製錬以外にもテーマを拡大してゆく方針で来年秋には設備技術の交流を行えるよう準備を進めることとなった。

3. 日ソセミナーについて 本年5月のセミナーの報告が行われた。次回は1979年に開催することとなり，日ソ間でテーマを提案，検討を行う。そのために各委員よりテーマについての意見を提出していただくこととした。

4. 第3回鉄鋼工学セミナー準備状況および西山記念技術講座の今後の予定が各々報告された。

編集委員会

第4回和文会誌分科会 開催日：6月10日。出席者：長嶋主査，ほか14名。

1. 19件の論文審査報告がなされ，修正依頼4件，掲載決定10件であった。

2. 「鉄と鋼」第63年第12号(10月号)に，論文11件，技術報告1件が掲載決定した。

第4回英文会誌分科会 開催日：6月7日。出席者：荒木幹事，ほか7名。

1. 12件の論文につき審査報告がなされ，掲載可2件，照会后掲載可7件，修正依頼3件であった。

2. 「鉄と鋼」63年7号より5件，63年10号アブストラクトより4件，及び「鉄と鋼」以外の国内雑誌より4件の計13件を，それぞれ研究論文として投稿を勧誘することとなった。

共同研究会

コークス部会

第14回部会 開催日：5月18～19日。出席者：中村部会長，ほか120名。

I. コークス部会は今回部会昇格後の初会合であるが，開催回数は分科会当時から追番とした。

I. 講演 「最近5ヶ年間のコークス製造技術の改善，指向」標記に関し鋼管・本社鉄鋼技術部椿孟氏に講演していただいた。

II. 自由議題

今回は共通議題を設定せず，各社より自由テーマを提出してもらった。今回あらかじめコメントーターを決めておき，討論の充実をはかった。

IV. 第2日目は製鉄第50回記念部会と合流し中村部会長より特別講演を行なってもらった。

V. 次回は神鋼・関西熱化学Gで担当していただく。

製鉄部会

第50回部会 開催日：5月19～20日。出席者：鈴木部会長，ほか約200名。

I. 第1日目は製鉄50回記念部会であり諸先輩，関係者も含め220名の多数の出席者があつた。この記念部会では特別講演，映画を主な催し物とした。懇親会は鋼管・本社地下で行ないOB，関係者親しく懇親した。

II. 第2日目は下記のテーマに従いビジョン討論会を行なった。座長は部会長が行なった。

メインテーマ：安定成長期における製鉄部門のあり方。

サブテーマ：①将来の原料面よりみた対策

②将来の科料，エネルギー面よりみた対策

③高炉設備の有効利用面よりみた対策

III. 自由議題 5件の報告があつた。

IV. 新設改修報告 5件の報告があつた。

V. 次回開催は住金・和歌山を予定している。

電気炉部会

第9回第1分科会 開催日：5月12～13日。出席者：池見部会長，山木主査，ほか49名。

1. 開催場所 王子製鉄(株)群馬工場

2. 特別講演

「電気炉の最近の動向と直面する課題について」と題して講演が行われた。

講演者 石川島播磨重工業(株)第2プラント設計部長 安川昭造氏

3. 研究報告の共通テーマと発表件数

(1) 減産下における電気炉作業のコスト低減について(10件)

作業方法改善耐火物原単位向上などが中心となり活発な発表，討論が行われた。

(2) 電気炉工場設備のメンテナンス(6件)

事故例とその対策について報告が行われた。

4. 自由テーマ

2 件の自由テーマ報告が行われた。

5. 工場見学 王子製鉄群馬工場の見学を行なった。

第 10 回第 2 分科会 開催日: 5 月 26~27 日. 出席者: 池見部会長, ほか 57 名.

1. 開催場所 (株)日本製鋼所室蘭製作所

2. 特別講演

「ステンレス鋼材の活用面から見た将来の展望」と題して講演が行われた。

講演者, 新日鉄, 技術サービス部ステンレス鋼グループ 課長 菜畑和三氏

3. 研究発表の共通テーマおよび発表件数

1) 電気炉の省力, 省エネルギー, 合理化, (9 件)

作業の機械化, 自動制御についての報告が 4 件と中心となった。

2) ステンレス鋼の溶製について, (6 件)

低窒素, 低炭素, 低硫ステンレス鋼の溶製についての報告が件行われた。

4. 自由テーマ

8 件の自由テーマ報告が行われた。

5. 工場見学 日本製鋼所 室蘭製作所の見学を行なった。

テーマ「鋼片の品質保証体制について」4) 自由議題, の順に進められた。

(2) 第 2 日目

特別講演

テーマ「圧延における最近の計測技術の進歩」

講師 川崎製鉄(株)水島製鉄所システム部 大島真氏
工場見学 川鉄・千葉 第 3 分塊工場を中心とした工場見学を行なった。

第 43 回厚板分科会 開催日: 5 月 19~20 日. 出席者: 青山主査, ほか 100 名.

1. 開催場所 新日本製鉄(株)名古屋製鉄所

2. 議事概要

(1) 第 1 日目

定例の各事業所による「工場操業状況報告」が行なわれた。続いてメインテーマの「厚板工場の経済操業」の討論を行なった。

(2) 第 2 日目

第 1 会場において技術スタッフなどによる第 1 日目のメインテーマの続きの討議, 及び第 2 会場において作業長などによる「要員合理化の事例」の討議を行なった。

3. 工場見学 名古屋製鉄所の厚板工場を中心とした工場見学を行なった。

条 鋼 部 会

第 25 回大形分科会 開催日: 6 月 2~3 日. 出席者: 有沢部会長, ほか 74 名.

テーマ研究 I 「工場操業状況」, テーマ研究 II 「エネルギー原単位低減対策」および自由研究についてそれぞれ発表討議した。

テーマ研究 II では, ホットチャージについて詳細に発表された外, 抽出温度見直し, 燃料種類の変更, 断熱材の使用などについて活発に意見が交わされた。

自由研究では, 「乱尺仕分装置 (川鉄葺合)」および「精整玉掛作業の合理化 (新日鉄広畑)」がそれぞれ紹介された。

第 42 回中小形分科会 開催日: 5 月 19~20 日. 出席者: 吉村主査, ほか約 100 名.

テーマ研究 I 「工場操業状況」 テーマ研究 II 「設備保全について」および自由研究「全工程における自動化事例 (A グループ)」, 「自動計測機器 (B グループ)」について発表討議を行なった。

特別講演として「条鋼・線材工場における温度・寸法・疵などの計測について」と題し, 計測部会の石山氏 (住金小倉) に講演をして頂いた。

次回テーマは「品質保証体制と対策」および自由研究「省エネルギー対策」の予定。

第 43 回線材分科会 開催日: 5 月 25~26 日. 出席者: 三木主査, ほか 74 名.

テーマ研究 I 「工場操業状況」 テーマ研究 II 「圧延材の熱鋼温度管理」 テーマ研究 III 「オンラインの計測機器の使用状況」についてそれぞれ各社提出資料に基づき発表討議を行なった。テーマ研究 II では, 設定温度, 冷却方法など操業面からの質疑が出された。テーマ研究 III では, 温度計の他, 疵検出器, 寸法測定器および秤量機など

特 殊 鋼 部 会

第 55 回部会 開催日: 5 月 17~18 日. 出席者: 高梨部会長, ほか 90 名.

1. 開催場所 日本高周波鋼業(株)富山工場 大太平洋金属(株)富山工場

2. 共通テーマ 3 テーマを設け, 各々の座長の下で発表と活発な討論が行われた。

(1) 検査工程の合理化 (圧延関係)

座長 愛知製鋼知多工場検査課長, 栗田俊男氏

6 件の研究報告が行われた。

(2) 検査工程の合理化 (鍛造関係)

座長 日本高周波富山工場技術部長, 竹越晋一氏

2 件の研究報告が行われた。

(3) 鍛造工程の合理化

座長 大太平洋金属富山工場副工場長, 佐藤祐一郎氏

9 件の研究報告が行われた。

3. 自由テーマについては 7 件の報告が行われた。

4. 工場見学 日本高周波富山工場, 大太平洋金属富山工場の見学を行なった。

鋼 板 部 会

第 44 回分塊分科会 開催日: 6 月 2~3 日. 出席者: 有村部会長, ほか 115 名.

1. 開催場所 川崎製鉄(株)千葉製鉄所

2. 議事概要

(1) 第 1 日目

板, 条の 2 グループに分かれて議事が進められた。討議は

1) 操業調査表, 2) 作業時間調査表, 3) メインテ

が紹介され、測定精度や活用方法について質疑応答が行なわれた。

尚次回のテーマは「線材工場の工程管理」および自由議題と決定された。

鋼管部会

第28回部会 開催日：5月19～20日。出席者：田中部会長、ほか135名。

1. 共通議題として

「鋼管工場の環境保全について」と「素材の設計と管理について(その2)」が採り上げられ、活発な討議が行なわれた。

2. 特別議題として

「自主管理活動について」神鋼・長府北の松本毅氏と「ラインパイプの終局耐力の実験的研究」新日鉄・相模原の宮崎信雄氏よりそれぞれ有益な発表が行なわれた。

3. 分科会報告について

「継目無鋼管分科会」について小滝主査より、「溶接鋼管分科会」について大日方主査よりそれぞれ分科会の活動報告が行なわれた。

4. 工場見学

第1日目 神鋼・長府北工場

第2日目 新日鉄・八幡製鉄所

鉄鋼分析部会

第40回部会 開催日：5月25日。出席者：池野部会長、ほか40名。

1. 開催場所 学士会館(本館)

2. 議事概要

(1) 各分科会、小委員会についての各主査による経過報告。

(2) 幹事会関係報告

(3) 標準資料委員会関係報告

耐火物部会

第21回部会 開催日：5月12日。出席者：坂野部会長直属幹事、ほか51名。

春の部会は製鉄関係に関する研究発表を行なうことになっており、今回は特に高炉本体の耐火物を中心に取上げた。

提出された資料は16件あり、主なテーマは次のとおりであった。

1. 高炉解体調査 2. 高炉各部の煉瓦の材質的、構造的検討 3. 高炉樋の施工法 4. 熱風炉関係 5. その他。

これらの発表に基づき活発な討論がなされた。今後、高炉関係耐火物については、材質および施工法の面ですらに詳細に研究していくこととした。

熱経済技術部会

第60回部会 開催日：5月26～27日。出席者：片田部会長、ほか83名。

1. 一般報告

(1) 共同研究会運営委員会・同総務幹事会 (2) 熱経済技術部会幹事会、(3) 熱経済技術部会に関係ある他部会の報告、(4) 焼鈍技術研究小委員会

2. 鋼材強制冷却小委員会活動結果報告

3. 特別記念講演

(1) 「熱経済技術部会 60 回の歩みと熱管理の将来展望」(明大・設楽教授) (2) 「欧州鉄鋼業の熱管理活動」(関大・大塚講師)

4. 研究議題

(1) 熱風炉プロフィールと操業効率について

5. 統一議題

(1) 熱管理の推進状況と将来方向

6. 自由議題

「ホットチャージについて」他16件の発表が行なわれ引き続き活発な討論が行なわれた。

7. 工場見学

新日鉄・大分製鉄所

計測部会

第39回秤量分科会 開催日：3月24～25日。出席者：宮崎部会長中沢主査、ほか59名。

I. 共通議題「製鋼工場・連鑄工場の秤量機の現状と問題点」各社より資料を提出してもらい活発な討論を行なった。

II. 共通議題「前回共通議題のまとめ」新日鉄より前回の共通議題「ヨークス工場・焼結工場秤量機の現状と問題点」のまとめを報告してもらった。

II. 工場見学

久保田鉄工(株)久宝寺工場を見学した。

IV. 次回開催について

第40回分科会は昭和52年10月日新・呉で開催する予定である。

品質管理部会

第36回部会 開催日：6月2～3日。出席者：河西部会長、ほか83名。

1. 共通議題I「管理基準外れ処理システムの現状と問題点」各事業所より15件の資料が提出された。特に厚板の管理システムではシステムの維持と新しい担当者への伝承が問題となっている。

2. 共通議題II「鉄鋼業における自主検査の現状」各事業所よりアンケートの回答があり、まとめの担当者である鋼管・佐坂氏が回答内容の確認を行なった。

3. 工場見学

川崎製鉄(株)水島製鉄所第2厚板工場を見学した。

4. 次回開催地

本年秋の部会は鋼管・京浜で開催する予定である。

設備技術部会

第16回銑鋼設備分科会 開催日：6月9～10日。出席者：矢沢部会長、ほか110名。

I. 共通議題「溶銑脱硫設備の現状と問題点」オーブ

ソレドール型トビード型 ATH 型、連続型について討論を行なった。

I. 耐摩耗シリーズその I 連铸関係

各事業所よりのアンケートを神鋼、中山、日産、住重にまとめてもらい、興味ある点については特別コメントを指名し、討論に深みを添えた。

II. 講演「鋼の連続製鋼法について」

標記題目にて金材技研中川博士に講演していただいた。参加者一同興味ある内容につき深く感動した。

IV. 自由議題 3 件の発表があつた。

V. 次回は川鉄担当で開催の予定である。

VI. 工場見学

日立造船(株)桜島工場を見学した。

第 2 回電気設備分科会 開催日: 5 月 18~19 日 出席者: 矢沢部会長, 小坂主査, ほか 88 名。

神戸製鋼・加古川製鉄所で開催された今回の分科会では、メインテーマとして「シーケンサー標準化の基礎調査」を、サブテーマとして「保全実績に関する調査」、「製鉄工業における省電力のための実施例調査」および「交流機のサイリスタ制御に関する調査」を採りあげ活発な討論がなされた。また、今回は初の試みとして、各社 1 件の自由発表を行なった。この自由発表では、討議時間が短かつたにもかかわらず熱心な討議がなされ、非常に好評であつた。

工場見学は、自由発表に先立つて、第 2 日目の午前に行ない、加古川製鉄所の発電所、第 8 線材工場および熱延工場を主体に行なわれた。

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第 14 回 SC9 分科会 開催日: 5 月 27 日。出席者: 有賀主査代理, ほか 7 名。

1. 第 12 回 TC17/SCI2 国際会議対策

ぶりき板(コイル)の改正原案について検討したが、錫の一点保証値については、呼称付着量の 80% と最小平均付着量とを計算し、どちらか有利な方を提案することにした。また、テンパ区分については JIS に規定されており、また実績の多い T-2 1/2(T-55) を新たに提案することにした。

なお国際会議には東洋鋼板及び新日鉄(欧州駐在)に出席を依頼した。

第 36 SC12 分科会 開催日: 5 月 24 日 出席者: 三佐尾主査, ほか 11 名。

1. ISO 国際会議対策

熱延ストリップの一般用、絞り用、構造用品質(N 262, 263)の最小板厚、最大板幅、板厚公差(クラウンとの関係、スリット材の取扱いなどを検討し、日本コメントを作成した。

また各国コメントを検討し、日本の態度を決定した。

第 11 回 SCI5 分科会 開催日: 5 月 26 日。出席者: 山南主査, ほか 18 名。

1. 第 6 回 SC 15 国際会議出席報告

分岐器用特殊レールと継目板が検討されたがイギリス、ドイツ、日本及び UIC グループの 4 グループに分か

れ、互いに自国の規格を ISO に適用させようとする姿勢が強く出ていたが、その中でもイギリスが終始一貫して寸法許容差などの仕様は需給両者で協議すればよく ISO は Guidance として与えられるものであると主張していたとの報告があり、論議を呼んだ。次回は継目板用ボルト、鋼製枕木、Base plate が議題となるため国内審議の中心を鉄道施設協会にお願いすることにした。

第 1 回 SC16 分科会 開催日: 6 月 8 日。出席者: 山南主査, ほか 13 名。

1. 委員構成

輸出量の多い平電炉から 2~3 社委員に追加することになった。また必要に応じて、補強用鋼と PC 鋼のグループに分けて検討することにした。

2. 国際会議派遣代表者

第 1 回 SC16 国際会議に 補強用鋼側から新日鉄、PC 鋼側から神鋼鋼線工業が出席することになった。特に神戸製鋼に出席要請があつた。

3. 日本コメント

規格の種類・規定すべき実用特性などについて各グループで検討し、その結果を次回分科会で審議する方式で進めることにした。

第 13 回 TC5 分科会 開催日: 3 月 23 日。出席者: 金井主査, ほか 7 名。

1. 水圧空圧パワーシステム用鋼管

圧力容器用継目無鋼管(ISO 2604/I)及び精密継目無鋼管(ISO 3304)で十分カバーできるので、この規格の制定に反対することにした。

2. ロンドン会議対策

鋼管単重表の改正案の概略検討を行つた。また、日本鋼管、住友金属の社の 2 出席が決まつた。

第 14 回 TC5 分科会 開催日: 4 月 7 日。出席者: 日下部主査, ほか 8 名。

1. ロンドン会議対策

鋼管単重表の改正案、ステンレス鋼及びボイラ用鋼管の寸法とその許容差改正案、塗覆装鋼管について検討日本コメントを作成した。

第 15 回 TC5 分科会 開催日: 5 月 17 日。出席者: 日下部主査, ほか 8 名。

1. 第 19 回 ISO/TC 5/SCI 国際会議報告

日下部, 前田両氏から 配布資料により概況報告が行われた。

なお鋼管の標準寸法を検討するため設置された WG5 会議に 日本も参加することを決定した。

鋼管の塗覆装については、鋼管分科会塗覆製 WG の協力を得て対処することにした。

第 54 回特殊鋼分科会 開催日: 3 月 29 日。出席者: 品川主査, ほか 13 名。

1. 自工会との打合結果

SNM23H の 15 mm における硬さ、SMn3H, SMn21H, S'MnCr21H, S'Cr3H の C 量の相異についての打合せ結果が報告された。

2. SC材の機械的性質データ

各社から提出データの説明があつたが、N 数が少ないので結論は次回へ持越した。

3. 記号体系の PR

41関連学協会に対するアンケートの中間発表があり、55社回答中1社のみ反対であつた。また標準化ジャーナル6月号にPR記事を投稿することになり、記号小委員会では原稿内容を審議することにした。

4. H鋼の表示方法

焼入性を指定方法が8通りあるので、各社の実績を調査の上検討することにした。

第55回特殊鋼分科会 開催日：5月12日。出席者：石川主査，ほか12名。

1. 石川主査就任挨拶
2. SC材の機械的性質

JIS解説に掲載の炭素鋼区分による機械的性質と質量効果のデータ集は、現在においてもほぼ妥当であることを確認した。

3. H鋼の表示方法

実績では指定する距離における硬さで示す方法（自工会推奨）が殆んどあるが、この方法は諸外国では例がない。したがって次に多かつた。指定する硬さに対する距離で示す方法（ISOなど）の二方法とすることにした。

4. 機械構造用鋼の記号体系

記号体系アンケート調査の結果 賛成147件、一任85件、反対15件で、記号改正に賛意が表明された。又切換えに要する期間も1年以内であつた。

.....

第53回鋼管分科会 開催日：3月30日。出席者：丸岡主査，ほか18名。

1. 規格原案の見直し

配管用鋼管8規格、熱伝達用鋼管4規格の最終原案の見直しを行ったが、水圧代替NDIについて超音波、渦流以外のNDIの取扱い、Uベンド管における外径変化率、衝撃試験における再試験条件などの再検討を次回行うことになった。

2. 配管用鋼管の標準外径

JIS寸法をISO寸法の切換えるため、アンケート調査を行うことになった。

第54回鋼管分科会 開催日：5月24日。出席者：丸岡主査，ほか12名。

1. 懸案事項

Uベンドの外径化率、シャルピ試験の再試験条件、STPLの外径許容差の表わし方、STPTの熱処理条件を検討した。

2. 配管用鋼管の標準外径

ISO標準寸法をJISに採用することを前提としたアンケート文案を検討した。なお外径14"以上はISOでも流動的なので、決定的な表現はさけることにした。

3. 加熱炉管

新規原案の骨子説明があつた。

.....

第52-1回機械試験方法分科会 開催日：5月23日
出席者：川田主査，ほか13名。

1. 運営方針と組織の再編

当分科会の日常活動を強化するため、試験法と材料特性値との関係などまで及んだ調査、研究を活発に進める

ことにした。このため幹事会を設けて企画及びWG間の調整、ISOの審議を行い、更に作業テーマに応じたWGを随時設立して2年位の期間内で作業を完了させる機動力のある運営を計ることになった。

2. 作業テーマ

アンケート調査により作業テーマを選定することになり、アンケート案を幹事会で作成することになった。

.....

第26回鋼管判定試験方法分科会 開催日：3月31日。出席者：品川主査，ほか16名。

1. 鋼の火花試験方法

規格本文については字句表現の修正、解説については主な改正欄に、火花スケッチ図は各社の火花試験関係のベテランが集まり共同実験により作成したこと、火花の写真集を作ることは十分論議の末やめたこと、必要に応じ鋼種を追加したことを更に詳述することにした。

第27回鋼質判定試験方法分科会 開催日：5月30日。出席者：石川主査，ほか15名。

1. 鋼の火花試験方法

修正案について検討し、最終案を得た。なおスケッチ図は付図として一括まとめることにした。解説ではSTK4の削除、浸炭層の追加及びSACM1の窒化層を解説にまわした理由などを更に詳述することにした。

2. 今後の進め方

今回をもつて鋼質判定試験方法10規格の見直しを終了したので、今回は、新規希望規格あるいはISOとの関連、解説記述の保留事項などに対する検討を行うことにした。

ク リ ー プ 委 員 会

第1回クリープ委員会 開催日：5月16日。出席者：平委員長，ほか30名。

1. 昭和51年度事業報告並に収支決算について
2. 昭和52年度事業計画並に収支予算について
3. 高温クリープ試験分科会の事業活動について
4. その他。国際会議について

上記について報告並びに協議が行われいずれも了承された。

とくに(3)項に関しては、クリープ破断国際共通試験の最終レポートが昨年9月BSCより送付されてきたが、これをもつてこの試験は事実上終了したことが告げられた。そこで52年度には次のごときテーマと目的をもつて新しく活動に入りたいことが委員長より提案された。この分科会の名称も「高温クリープ、疲労試験分科会」と改め金材技研との連けいを保ち当委員会高温熱疲労試験分科会の協力のもとに着手することとなった。

テーマ：高温用金属材料の高温低サイクル疲労データとクリープデータとを対にして収集すること。

目的：クリープと疲労との関係、相互作用に関する検討、あるいは解析のための基礎資料とするため。

第1回高温引張試験分科会 開催日：5月16日。出席者：田村主査，ほか15名。

1. 熱高温共通引張試験結果の取りまとめについて
事前に配付されていた資料に基づいて、まず主査より

原案の字句に関し変更かた申出があり、これを検討のちついで各委員よりの意見をもとに討議がなされ、主査の手元で追加、訂正および全般を眺め修正を行ない本報告書を完成することが了承された。

2. JIS G 0567 見直し改訂(案)について

主査の手元でまとめられた最終改定案につき事前に委員の意見を求めていたが、この審議のため分科会が開催された。

名称、適用範囲、負荷方法などの項について討議が行われこれらの仕上げを主査および前項1の担当委員に一任することで了承された。

試験高炉委員会

第 29 回委員会 開催日：4月15日。出席者：近藤委員長代理、ほか 12 名。

1. 第 27 次試験高炉操業は「コールドペレット」を使用し試験操業を行なうこととなった。コールドペレットの製造は東大・生研で基礎的に行なっているが、今回の試験操業には間に合わないの、現在製造方法が既に確立されていると考えられている新日鉄製を使用することとなった。

鉄鋼標準試料委員会

第 51 回委員会 開催日：5月20日。出席者：池野委員長、ほか 17 名。

1. 在京委員会報告

51/Ⅱ～51/Ⅳまでの在京委員会の報告を行なった。

2. 51 年度決算報告

51 年度決算報告を事務局が行なった。

3. 在庫量及び製造計画

在庫量及び製造計画を説明し、在庫が減少しているため製造を急ぐこととした。

4. その他

第 50 回委員会記念出版「日本鉄鋼標準試料の歩み」が出版されたので内容の紹介がなされた。

石炭ガス化利用委員会

第 1 回本委員会 開催日：5月30日。出席者：笹木委員長、ほか 24 名。

1. 昭和 51 年度報告書内容について

2. 昭和 52 年度委員構成について

二つの委員会(第 2 委員会及び第 3 委員会)についての紹介及び新委員の紹介が行なわれた。

3. 昭和 52 年度予算について

昭和 52 年度の予算についての簡単な報告が事務局よりなされた。

4. 昭和 52 年度の研究項目について

第 1 回運営委員会で出された意見などについて事務局より説明した後、各委員より活発な意見が出されたが今回取りまとめには至らず、出された意見を基に早急に運営委員会を開催し再度検討することになった。

鉄鋼基礎共同研究会

第 28 回運営委員会 開催日：5月30日。出席者：的場委員長、ほか 27 名。

52 年度より金属学会から小林、丸山、西沢、三島各氏、鉄鋼協会から盛、豊田、河西、不破各氏、部会長として大森、田村両氏が新しく参加されることとなった。

51 年度決算報告、52 年度予算について報告された。52 年度予算は運営費 1053 万円、特別研究費は 955 万円の計 2008 万円で対前年度比 8% up となった。

既存の「特殊精錬部会」「応力腐食割れ部会」「微量元素の偏析部会」の活動報告に続き、新規部会「高炉内反応部会」および「高温変形部会」の活動方針、構成員の説明がなされた。

最後に基共研の今後のあり方について自由討議を行なった。

高炉内反応部会

第 1 回部会 開催日：4月27日。出席者：大森部会長、ほか 22 名。

今回は部会第 1 回目の会合であり当部会の運営方法などにつき話し合いを行なった。

議題

(1) 部会委員の自己紹介

(2) 部会活動の主旨説明

(3) 部会活動方針について

(4) 高炉内反応に関する過去の文献のまとめ発表(3件)

・高炉炉床部反応に関する研究の現状と課題の総括(その1)

・過去に於る高炉内調査事項

・高炉プロセス解析の進歩

(5) 今後の日程について

第 2 回部会 開催日：6月7～8日。出席者：大森部会長、ほか 23 名。

1. 研究方向を決定するため、第 1 部会で提出された①高炉炉床部反応に関する研究の現状と課題の総括、②高炉プロセス解析の進歩、③過去に於る高炉内調査事項の 3 つの資料につき各位よりコメントをしてもらった。

1. 下村副部会長より「高炉サイドよりみた基礎研究に期待すること」、稲葉委員に「高炉内における装入物の動き」、下田委員に「レースウェイに関する研究の概要と展望」と題し報告してもらった。

凝固部会

第 16 回部会 開催日：4月6～7日。出席者：郡司部会長、ほか 36 名。

1. 基礎共同研究会凝固部会の活動は昭和 51 年度を以つて終了した。今回は最終部会であり、部会活動報告書作成にあたり執筆要領、打合せを行なった。

1. 部会報告書は昭和 52 年 9 月中旬に発刊する予定である。

特殊精錬部会

第10回第5分科会 開催日：6月8日。出席者：小林主査，ほか14名。

次の2題につき研究発表が行なわれた。

1. 「ESW 溶接金属の元素分布に及ぼすフラックス組成の影響および介在物の形態について」(阪大 岩本委員)

フラックス組成による溶接金属の元素分布介在物の形態の変化を調べ，不純物元素量と靱性との相関を検討した。

2. 「石油化学用 HK40 溶造管の性質」(三菱重工 浜中氏)

HK40 溶造管の2万時間使用後のマクロ，ミクロの性質を調べ，遠心鑄造管と比較検討した。

第7回第7分科会 開催日：6月2日。出席者：井上主査，ほか17名。

次の4件の研究発表が行なわれた。

1. CaF₂系スラグによる溶鉄の脱硫速度(九大・森，竹内，岸本，川合)

2. DCSP 再溶解における硫黄の移行(名大・井上，長谷川，名工試・加藤)

3. 大型 ESR 鋼塊における成分移動(日鋼室蘭・鈴木)

4. ESR におけるスラグ流動の理論解析(名大・井上，浅井，岩崎)

微量元素の偏析部会

第7回部会 開催日：5月25日。出席者：須藤一部

会長，ほか22名。

1. 場所 日本鉄鋼協会会議室

2. 議事概要

〔研究発表〕

以下の様に4件の研究発表と2件の依頼講演を行なった。

①McMahon の非平衡偏析説について ……堂山

②メスパワー効果による Fe 粒界に偏析した

Sn の状態の解析 ……石田

③高 Cr-フェライトステンレス鋼溶接部の機

械的冶金学的挙動 ……落合

④γ/γ', Fe₃C/γ, Fe₃C/α 界面における P, C

の偏析 ……須藤

⑤AES の定量性について(依頼講演) ……小林

⑥オージェスペクトルの定量性(依頼講演) ……清水

高温変形部会

第1回部会 開催日：5月13日 出席者：田村部会長，ほか32名。

田村部会長から部会設立までの経過報告，部会概要説明があり，各委員が自己紹介を行ない，次いで研究分担について討議を行なった後，下記テーマによる講演があった。

講演テーマ

1. 高温変形概論

2. 純金属ならびに合金の高温変形機構

3. 熱間変形抵抗と高温変形機構

4. 炭素鋼の領域における高温変形挙動

第9回結晶成長国内会議(NCCG-9)

主催：日本結晶成長学会(JACG)

協賛：12学協会(交渉中)

日時：1977年8月29日(月)~31日(水)

場所：東京都新宿区神楽坂 東京理科大学

招待講演：

(1) 反射高速電子回折(RHEEDによる新しい表面研究法) 東北大・金研 井野 正三

(2) シリコン中の転位ループとその電気的特性 日本電気・中研 白木 広光，松井 純爾

(3) 金属無転位結晶の成長と評価

原研 鎌田 耕治

(4) 気相からの氷の結晶成長

東理大・理工 権田 武彦

一般講演 約80件

参加方法 参加費 1,000円を当日会場受付で支払う。

問合せ先 〒162 東京都新宿区神楽坂

東京理科大学工学部 橋口研究室

Tel. 03-260-4271 (内線 439 または 488)

正 誤 表

『鉄と鋼』，f3(1977)5, pp. 736~747

『自動車排気ガス中におけるステンレス鋼の高温腐食挙動』

頁	行 目	誤	正
746	Table 9 の題目	……CO-CO ₂ -COS-180 ppm……	……CO-CO ₂ -COS-18 ppm……